

諏訪中 だより

多摩市立諏訪中学校

ユネスコスクール認定校

〒206-0024

多摩市諏訪5-12-1



令和6年6月14日

第3号

部活動によって得られるもの

校長 齊木伸郎

6月に入り、多くの運動部では、都大会の予選、いわゆる選手権大会や総合体育大会が活発に行われています。多くの3年生にとっては、この大会が中学時代最後の大会であり、勝ち進めば全国大会へと続く、この3年間で最大の目標とする大会です。

昨年度に新型コロナウイルスの扱いが5類になってからは、多くの大会がコロナ以前の形に戻って実施されています。私も、これまでいくつかの部活動の大会を観戦しましたが、下級生の声援や保護者の皆様からの励ましの声にあふれた試合は、会場の一体感が高まり、試合の結果はどうあれ、それだけで感動を何倍にもさせるものだ実感しました（今大会における各部活動の様子はホームページにも紹介させていただいております）。

振り返ると3年生にとっての部活動は、コロナに影響を受けた部分も多くありました。特に1年生の時には、練習の制限や自粛、大会の縮小などがあって、基礎基本を身に付けるべき時期に、十分に練習ができなかったこともあったかと思えます。また、部活によっては、試合を観戦することが制限され、試合のマナーを学んだり、身をもって大会の雰囲気を感じる事ができないばかりか、3年生の最後の大会を応援し、その姿を目に焼付けることも叶わなかったものもあったのではないのでしょうか。しかし、それらを乗り越え、3年生は今を迎えています。

3年生は後輩にとっての大きな目標です。そんな3年生が最後まで諦めずに取り組み、挑む姿が、後輩たちの今後の指針となります。生徒たちには、過去を振り返って、勝てなかった理

由を探したり、結果に一喜一憂したりすることではなく、今があることに感謝し、前を向いて最善を尽くしていくことを期待します。結果はどうであれ、これまで積み重ねた努力には変わりはありません。

こういう言葉もあります。

- 努力して結果が出ると、「自信」になる。
- 努力せずに結果が出ると、「驕り」(おごり)になる。
- 努力せず、結果も出ないと、「後悔」が残る。
- 努力して結果が出なかったとしても、尊い「経験」が残る。

中学校の部活動は、勝利することよりも、勝ち負けの先にある大切なものを自分なりに見つけることが大きな目的です。もちろん、手にするものは、立場や経験もさまざまですので、決して同じではありません。答えは努力の先にあります。その努力に胸が張れる諏訪中生であってほしいと願っています。

